協力会ニュースレター Newsletter

No.40

2026.02

岐阜大学協力会

事務局／岐阜大学産学官連携推進部門内

〒501-1193 岐阜市柳戸１番１

TEL.058-293-3187　FAX.058-293-2032　E-mail ccr-jimu@t.gifu-u.ac.jp

MAKE NEW STANDARDS. 東海国立大学機構　岐阜大学

1　特別講演会を「産学連携フェア 2025」と共催

令和7年12月2日（火）にOKB 岐阜大学プラザ（TOIC GIFU）1Fのプレゼンテーションエリアにおいて開催。学術研究・産学官連携推進本部主催の「産学連携フェア2025」との2部構成としました。

特別講演会終了後は同場所にて交流会を開催、講演者の名古屋工業大学教授・北川啓介先生とGIVELOVE株式会社代表取締役・北川愛子様も参加をされ、協力会会員の皆様と歓談を交えながら交流をしていただきました。

【第1部】

産学連携フェア2025：4名の先生による研究開発の紹介

【第2部】

岐阜大学協力会：特別講演会

【第1部】産学連携フェアでは「産学連携の拡大により研究成果の社会還元・技術移転を推進し　地域社会での新たな価値の創造や事業拡大に貢献することを目指す」を主テーマに、國枝部門長の挨拶に続き、4名の先生が研究紹介が行われました。

・地域竹資源を活かしたサステナブルプラスチックの創製　～脱炭素と地域循環型社会を支える新素材～

応用生物科学部　准教授　　鈴木　史朗

・女性技能実習生と「性と生殖に関する健康と権利（SRHR）」

教育学部　　准教授　　巣内　尚子

・映像・音声統合処理を用いたプロジェクションマッピングによる非破壊検査アシストシステム

工学部　　助教　　清水　恒輔

・「ごみ」を価値ある未来材料へ～常識を覆す材料改質技術で実現する資源循環～

工学部　　助教　　加藤　邦彦

2　特別講演会

岐阜大学協力会・岡本会長による挨拶の後、「2 つの形のスタートアップ」というテーマの下、大学教授にして株式会社 LIFULL ArchiTech 代表取締役社長の北川啓介先生には研究開発したインスタントハウスに関する講演を、そして岐阜大学生にして GIVELOVE 株式会社代表取締役の北川愛子様には日本文化とビジネスの融合についての講演をしていただきました。

講演の後、講演者二人によるトークセッションを実施。その際この二人が親子であることも明かしたうえで、起業家として抱えている問題点や解決方法等について伺いました。

【北川啓介先生の講演要旨】

建築の専門家として、地球上の家に困っている人々（難民キャンプ、ウクライナの被災者、能登半島地震の被災者等）に被災しにくい家を短期間で届けるのが、今私がやるべき仕事だと考えている。被災しにくい家は命を守ることが出来ると思っている。

私は家業である和菓子職人になりたかった。しかし両親のアドバイスもあり、他の技術も身に着けるべく選んだのが、和菓子と同じく、目に見えてモノづくりが分かる建築家になることであった。

名古屋工業大学の准教授時代に名工大ラジオというものを開設し、教員や研究者、民間の経営者との対談を収録。その際に放送出来ないようなオフレコの話もいっぱいお聞きし、それが今でも自分にとっての宝物となっている。

2011 年東日本大震災が発生。その時には現地に赴く事は無いだろうと考えていたが、2 週間後に新聞記者から、建築家として被災地の劣悪な住環境を一緒に視察をして欲しいと言われ、現地に行く事に。避難所の中には、窓が割れ、寒風吹きすさび、プライベート空間も全く無い想像以上の劣悪さの所もあり、大変衝撃を受けた。

そうした中、小学校の 3、4 年生くらいの男の子 2 人が私の手を握って外を見ながら、「仮の家を建てるのにも 3～4 ヶ月も掛かるんだって。大学の先生だったら来週建ててよ！」と言われ、大変やるせない気持ちになってしまった。そして、その言葉が私の研究者人生を 180 度変えるきっかけとなった。

それから、命を守ることが出来る家とは？早く建てる事が出来る家とは？について、現代の家造りに必要な定義と対比させる言葉を考え、その答えが空気を使う事であることに至った。そして試行錯誤を繰り返すこと 5 年。2016 年に、大学内でインスタントハウスのテストをすることにこぎつける事が出来た。

ミラノの学会でインスタントハウスを初めて発表したところ、世界中から 400 社を超える企業からライセンス契約のオファーを受けたが、殆どがライセンス料とかビジネスの話になってしまい、そういうものを嫌ってきた研究者としては何か割り切れない気持ちであった。そんな中、LIFULL 社だけはビジネスでは無く、将来に向けての夢の話を語ってくれたので、手を組むこととし、私はその子会社となる LIFULL ArchiTech 社を立ち上げ、起業家になった。

その後、各地にインスタントハウスを設置することに奔走。2023 年トルコ地震の際にもハウスを提供するなどして実績を積み上げていった。そんな矢先、2024 年 1 月に能登半島地震が発生。私は翌日には車にインスタントハウスを積んで現地に出発。輪島中学校の体育館内に屋内用のインスタントハウスを設置していたところ、子供たちも手伝ってくれて、みるみるうちにたくさんのインスタントハウスが立った。それを見た子供たちが「家が出来た！」と言うのを聞いて、東日本大震災の時に子供に言われてやるせない気持ちになっていた心が晴れるのを感じ、涙が止まらなかった。

現在も新しいコンセプトのインスタントハウス、トラックで持ち運びが出来、トレーラーハウスとしても使えるモバイルインスタントハウス、水上でも使えるフローティングインスタントハウス、ドローンで輸送できる軽量型インスタントハウス、難民キャンプの廃棄物で作るインスタントハウスの開発に注力をしている。

私は「ビタミン剤よりも痛み止め！」という考えの下、これからも家を持てない人に“命を守るための家”を提供していきます。

【北川愛子様の講演要旨】

入学後はラクロス部のマネジャーとして大学生活を楽しむつもりであったが、父の勧めもあり、上原先生が顧問をしている起業部にも入部したところ、多くの優秀な起業部の先輩方と知り合う事が出来て、起業の魅力に取りつかれてしまった。

PRE-STATION Ai にインターンとして参画し、やりたい事を探す日々を過ごしている時に、曾祖母がデイサービスに行きたがらないのを見て、高齢者向けの地域イベントの開催を思いついた。しかし、独力だけで行おうとしても、人手不足や準備の負担が大きくて心身の限界を感じ、大学生をスタッフとして登録して協力をしてもらう会社 GIVELOVE 株式会社を起業。現在は大学を休学し、名古屋市昭和区鶴舞にある STATION Ai に拠点を置いて活動を行っている。

現在 250 名ほどの学生に登録をしていただいており、高齢者だけではなく、障害者支援施設との連携も視野に入れて活動を行っている。

「どんな立場の人でも、生きる理由を見出すことの出来る世界を作る」ことが私の目標です。

【北川親子によるトークセッション要旨】

お二人に一緒に登壇をしていただき、司会から質問を投げかけて答えてもらう形で進行。質問に対して、お二人の本音トークで大変盛り上がり、当初予定時間を大幅に超える 40 分間があっと言う間に過ぎていきました。

質問は以下のような内容です。

- 東日本大震災が先生の起業のきっかけとなりましたか？
- 父である北川先生が起業家になったと感じたのはいつですか？
- 父親のどのような活動が、愛子さんが起業を意識するきっかけになりましたか？
- お互いに経営者として、自宅で議論することはありますか？
- お互いの仕事を入れ替えたらどうなりますか？
- お互いここだけは絶対に敵わないという所を教えてください

※北川先生、北川愛子様の講演、お二人のトークセッションにつきましては、岐阜大学協力会の事務局までご連絡いただければ、動画を提供させていただきます。

3 産学官交流会

OKB 岐阜大学プラザ１F のプレゼンテーションエリアにて、協力会副会長・王志剛先生の挨拶で開会。北川先生、愛子様、そして産連フェアで講演をされた先生方も参加をされ、質問に答えたり、意見交換を行なったりと意義のある交流会となりました。

また、北川先生が持ち込まれた屋内タイプのインスタントハウスの原寸大モデルを会場内に設置。内部には段ボール製のベッドや照明器具等も備え、実際の利用イメージが分かるものを参加者に見ていただきました。

【告知】

次年度の産連フェア・特別講演会は 2026（令和 8）年 11 月 20 日（金）に、OKB 岐阜大学プラザで開催予定です。